

粒をそろえ出荷統一

～ぶどう出荷目揃会～

弘前地区農協ぶどう連絡協議会は10月11日、尾上販売センターで出荷目揃会を開き、同会の生産者やJA関係者11人が出席した。

全農あおもりの西口康朗さんが出荷状況や規格を説明。出席者は、熟度・着色の程度、房の形状粒や傷果の違いによる等級の付け方などサンプルを見ながら確認した。

石川ぶどう部会の生産者は12月から贈答用のぶどう選果・出荷を控えているので、統一規格になるよう熱心に確認した。



規格を確認する石川ぶどう部会の生産者

りんご山選果徹底で所得向上へ

～晩生種りんご山選果基準会～

当JAでは、有利販売に努めるため、生産者がりんご出荷前に行う山選果の徹底を呼び掛けている。

10月20日、黒石地区で山選果基準会を開いた。六郷りんごセンターには生産者約100人が集まり、主力品種のサンふじや王林の選果基準を確認した。

黒石販売センターの佐藤淳一調査役が着色や大きさ、さび果、ツル割れの程度など出荷基準を説明した。「キズなどの程度を確認すること。黒星病など罹病果（りびょうか）や害虫など被害果は品質低下の原因や輸出に影響を及ぼすため、入れないように」と呼び掛けた。

今年産の生育は、大きさは若干小玉傾向であることを報告。良品生産のため、収穫時まで着色管理を行うよう指導した。



規格を確認する参加者

管理徹底でベトナムへ

～H29年産ベトナム向け輸出りんごの栽培地検査～

ベトナム向け輸出りんごは、生産園地が指定されている。当JA管内では、平川市内25園地、黒石市内20園地、板柳町内7園地、弘前市内（石川地区）3園地が指定され、病虫害の状況などを春から収穫まで検査している。輸出するりんごはすべて有袋栽培で、ふじ、ジョナゴールド、世界一、陸奥、金星の5品種。

当JA管内の全栽培園地で収穫前の栽培地検査が9月28日から29日（前期）、10月10日から13日（後期）の2回行われた。植物防疫官が輸出対象の樹に病虫害の有無などを目視で確認した。



園地で確認する植物防疫官